



☆ 耳元でささやく歌詞がつなぐ、 心のメロディ

～視覚障害者カラオケサークル
「オレンジエコー」を訪ねて～

狛江市内で20年以上の歴史を刻む「オレンジエコー」は、視覚障害を持つ方々がボランティアのサポートを受けながら歌を楽しむカラオケサークルです。代表の並木ヒロ子さんと、ボランティア代表の浅野純一さんにお話を伺いました。

■ 卓球の輪から広がった、もう一つの交流の場

発足は2002年。視覚障害者向け卓球サークル「オレンジボール」の活動中、メンバーから「カラオケも楽しみたい」という声が上がったことがきっかけでした。スポーツを楽しむ「オレンジボール」から派生し、文化活動を通じて交流を深める「オレンジエコー」が誕生しました。今では「体を動かすのは苦手だけど歌なら」という方も加わり、独自の文化を育んでいます。



並木さんと
ボランティアの浅野さん

このサークルの最大の特徴は、ボランティアによる「歌詞の読み上げ」です。画面の文字が見えない歌手のために、ボランティアがタイミングよく2～3小節先を耳元でささやきます。「歌しやすい間(ま)を大切にしています」と浅野さん。さらに、間奏中にはビデオの風景を「今は海岸沿いを歩いていますよ」と言葉で描写し、歌の世界観を共有する工夫も凝らされています。



■ 困難を乗り越え、再び響く歌声

活動はコロナ禍による長期休止という試練を経験しました。「耳元でささやく」活動の性質上、再開には慎重な判断が必要でしたが、感染対策を徹底し、現在は上和泉地域センター音楽室で月1回の活動を再開しています。

「歌うことは腹式呼吸で健康にも良く、何よりストレス発散になります」と並木

さんは笑顔を見せます。参加者にとってここは、単に歌う場所である以上に、大切なおしゃべりの場。日々の生活情報から体調の相談まで、ざっくばらんに情報を交わす時間は、社会とつながる貴重な窓口となっています。



■ 誰もが主役になれる場所を目指して

選曲は昭和の名曲から最新のヒット曲まで多種多様。ボランティア自身も新しい歌を覚えて披露するなど、互いに刺激し合い、活気に満ちています。

現在の課題は、活動を支えるボランティアの確保です。会を安定して続けていくためには、新しい力、特に長く一緒に楽しんでくれる方の存在が欠かせません。並木さんは「歌が苦手でも、聴くだけやおしゃべり目的での参加も大歓迎です。視覚障害を持つ若い世代の方も、ガイドヘルパーを利用してぜひ一度遊びに来てください」と呼びかけます。

こうした地域の「人の輪」こそが一番の支え。オレンジエコーの歌声は、これからも狛江に温かな彩りを添えていくことでしょう。

(取材記事：こまえくぼ広報部会 大西)

サークル情報

- 開催日：月1回 土曜日(午後)
- 場所：上和泉地域センター 音楽室
- 費用：無料
- 会員数：7名(2026年3月現在)

- 問い合わせ：
参加・ボランティア希望の方は、
代表の並木さんまで。
携帯電話：090-3436-7812
mail: orange-wing@ac.auone-net.jp